

平成 25 年度

事務所だより



第 47 号

平成 26 年 3 月 10 日

浜田教育事務所

☆所長あいさつ (P1)

☆各事業の紹介 (P2)

☆キャリア教育「新春座談会」(P3 ~11)

☆学校訪問指導を終えて (P12~13)

☆学力向上に向けて (P14~15)

☆H26管内事業計画・各種研修会 (P16)

学び続ける

所長

春日 仁史



〈昭和 40 年代後半…覚えた量が学力と見なされて…〉

私事になりますが、中学校を卒業して、ちょうど 40 年が過ぎようとしています。中学生時代、こんなに物質的に豊かな世の中になるとは思ってもいませんでした。

昭和 40 年代後半といえば、若い方はおわかりにならないかもしれませんが、教室の暖房は石炭ストーブで、我が家にもやっと固定電話がついた頃で、テレビで見る民放番組は 1 社だけという時代でした。級友との話題は、ラジオの深夜放送番組やそこで流れる歌。学校は週休 1 日で、土曜日は 4 時間授業。部活動休みは年に 1 日だけで、上下関係が厳しく、「練習中には水は飲むな。」と言われていました。当時はそれが当たり前で疑問にも思いませんでしたが、今から思うとなんて非科学的な活動であったことか。授業は「教育内容の現代化・高度化・系統性重視」の学習指導要領のもと、多くの知識、技能をより効率よく教えることに力が入られ、覚えた量が学力と見なされていた時代であったように思います。

〈これからの日本…40 年後の未来は…〉

さて、今の児童生徒たちが、これから 40 年後、どのような世の中になっているのでしょうか。

内閣府の発表による将来推計人口で、出生率等がこのままであるとすると、2048 年には日本の人口は 1 億人をわり、2060 年には 8674 万人になると推計されています (ちなみに 2013 年 10 月 1 日現在 1 億 2752 万人)。

日本の少子化・高齢化が急激に進行する中、世界の人口は 2050 年には 1.5 倍になると予想されると聞きます。さらに、グローバル化や情報通信技術が進展し、人・モノ・金・情報等が流動化するなど変化が激しく先行きが見通せません。大規模な自然災害への備え、環境問題や食糧・エネルギー問題など地球規模の課題への対応も求められます。

〈「生きる力」の確実な育成〉

このような時代を担う子どもたちにどのような力をつけることが求められているのでしょうか。

今年度提示された国の第 2 期教育振興計画では、初等中等教育段階において『生きる力』の確実な育成を掲げています。「生きる力」はこれまで同様、「いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力など、『確かな学力』、『豊かな心』、『健やかな体』からなる力」としています。

そういう中、平成 25 年度は浜田教育事務所管内で、8 月 23 日に島根県公立小中学校教頭会研究大会、10 月 22 日に島根県特別支援教育大会、10 月 25 日には島根県教育研究大会 (浜田大会)、10 月 31 日には島根県公立小中学校事務研究大会、12 月 1 日には島根県公民館研究大会と様々な県の研究大会が開催され、真摯に研究を進め続けられた成果と課題を明らかにされました。

〈能動的な「学び続ける」姿勢を！〉

11 月 7 日、8 日には中国地区学校図書館研究大会が浜田市において、大会主題「豊かな感性と確かな学力をめざして～学びをひろげる学校図書館～」のもと、開催されました。

会場校の研究紀要を見て、客観的なデータに基づく成果にとっても驚きました。決して、県の学力調査を意識されて取り組まれたわけではなかったのですが、研究を進められた結果、ある学年の経年比較に大きな伸びがありました。3 年間の取組を振り返りおっしゃった校長先生の一言は忘れられません。「研究校を受けた時、指導内容が三割増え、この上、図書館活用教育を推進するとなると、ますます忙しくなると思った。しかし、研究を進めるにつれて、子どもたちの学ぶ意欲が高まってきていると実感するまでになった。」そして、「この 3 年、研究を進めていって、私自身とても勉強になった。」と。教職員が目的を共有し、積極的に指導・助言を受け、工夫・改善を重ねながら実績を積み上げられたことを知り、深い感銘をおぼえました。その能動的な「学び続ける」姿勢こそ、子どもたちにつけたい中核の力であるのではないのでしょうか。

「今正に我が国が求められているもの、それは、『自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び』である。」第 2 期教育振興計画の前文の一文に通ずると考えます。

各指定事業の成果

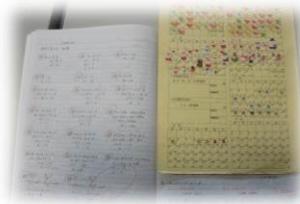
平成 25 年度 ^{いえへん} 家勉充実プロジェクト

【浜田市立三隅中学校・大田市立第二中学校・大田市立北三瓶中学校・江津市立桜江中学校】

4校の実践校がそれぞれの学校の実態に応じ、生徒の主体的に学習に取り組む態度を養うために、家庭学習を充実させる実践研究に取り組んだ。①家庭学習指導を推進するための体制づくりに係る研究 ②家庭学習の内容の工夫に係る研究 ③家庭学習を充実するための授業改善に係る研究 ④実践校の取組及び成果の普及 が主な内容。

浜田市立三隅中学校

よく考え、自信をもって表現できる生徒の育成をめざして
～言語活動をとおして学び合う集団づくり～



自学ノートの提出の継続化で学力向上。シールを貼ったりコメントを付けたりすることは生徒の意欲を高めることに有効。家庭で日々の授業の復習に取り組んでいる生徒は着実に学力が伸びている。

大田市立第二中学校

豊かな心を持ち、自ら学ぶ生徒の育成
～学習習慣、基礎学力の定着・向上をめざして～



学校・学年・学級通信によって取組を周知する。保護者と連携して、家庭学習の定着や生活改善を進めることを大切に。落ち着いた学習できる環境を作るとは学力向上につながる。

大田市立北三瓶中学校

自ら学び、伝え合い、高め合う生徒の育成
～社会の中でよりよく生きようとする心と確かな学力を育む指導の充実を目指して～



ホワイトボードを活用し、個人思考や集団思考の時間をきちんと確保するなど、言語活動の充実を図った各教科等の指導の工夫をする。分かる授業、楽しい授業が、家庭学習に取り組む意欲を生む。

江津市立桜江中学校

充実した家庭学習のできる生徒の育成

3回の家勉講演会を実施。第1回は、学習に向かう心構えについて聞き、少しずつ具体的な内容の講演会を企画。事前指導、事後指導を計画的に行い、生徒のやる気を常に刺激する。継続すると力になることが分かった生徒は、自分から工夫して家庭学習に取り組める。



平成 25 年度 学習と評価実践研究事業 【浜田市立第一中学校】

◆研究の概要

研究主題： 学び合い活動を通じた、思考力・判断力・表現力等を伸ばすための学習活動の工夫・改善
「授業の中で、他者とのかかわりを持ち、課題解決に取り組ませるような工夫をすれば基礎的・基本的な知識の習得とともにそれを活用した、思考力・判断力・表現力等が伸びていくだろう。」と考え、理科と英語科を中心とした研究に取り組んだ。

◆取組の概要

- ① 基礎・基本の定着を図り、思考力・表現力を育成するための教科指導の充実
ア 「学び合い」活動を取り入れた授業の展開 イ 表現力の育成
ウ 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ② 生徒の意欲が高まるための授業・学習評価の工夫
ア 学習意欲の向上 イ 学習評価の工夫
- ③ 学習規律の確立
ア 「私たちの約束」の見直し イ 「学習の心得」の見直し ウ 「グループ学習の決まり」の設定

◆成果

- 生徒の多様な意見を引き出し、それを基に協同で「思考」する活動を展開するには、適切な題材（単元）と多様な意見が出せるような設問が最も重要である。
- 教科を超えた「学級づくり」を最優先に考える必要がありアンケート Q1 などを利用した生徒個々の実態把握が欠かせない。
- 多様な個人の意見を一つにまとめるには、お互いの意見を尊重しつつも、自己主張をすることも大切になってくる。互いの意見を自由にぶつけることができるような人間関係づくりが不可欠である。
- 「ミニホワイトボード」は、話し合いを活性化させるために大変有効なアイテムである。



ミニホワイトボードを活用し、個人の考えを出し合い、班の意見としてまとめている場面（理科）

平成 25 年度 小中連携キャリア教育推進事業 【浜田市立第二中学校区・浜田東中学校区】

◆研究の概要

「社会や地域に貢献しようとする児童生徒の育成」をテーマに、小学校・中学校・地域が連携したキャリア教育の在り方等を研究し、その成果を浜田市全体に普及することに取り組んだ。

◆取組の概要

○小中 9 年間を見通した体系的・系統的な指導に向けて

- ・キャリア発達に関わる諸能力一覧表やキャリア教育活動表を作成。(二中学校区)
- ・キャリア教育推進の指針となる 9 年間を一つにまとめた全体計画を作成。(浜田東中学校区)

○キャリア教育に係る意識調査の実施

児童生徒の意識実態や変容を把握するために意識調査を実施。経年変化や年度の初めと終わりの意識の変化を把握し、結果を事業推進に生かすことができた。

○浜田市内全小中学校教職員対象のキャリア教育講演会の開催

「主体的な子どもを育む、学習コーチング」と題しての佐々木宏氏の講演を実施。参加者同士でピアコーチング、自己決定・自己責任のコミュニケーションを体感した。

○小中一貫教育中学校ブロックでの連携

生徒指導部会や学力向上部会でテーマを決めて取組み、小中一貫教育だよりやキャリア教育だよりを発行した。

○キャリア教育に視点をおいた公開授業の実施

授業後の協議を通して、単元の中で小中学校それぞれが基礎的・汎用的能力をどのように位置付けるかなどについて深めることができた。

◆成果

○児童・生徒にキャリア教育の視点から適切な働きかけを行い、その意義を自覚した活動を継続して行わせることにより児童・生徒の意識は変容した。

○2つの中学校区の取組の成果を公開授業や講演会等で浜田市内全ての小中学校に広めることができた。



上府小学校・公開授業 6 年算数
ペアやグループ、全体で考えを出し合う【人間関係形成・社会形成能力】

平成 24・25 年度 金銭教育研究校 【大田市立静間小学校】

◆研究の概要

金銭教育の目標「ものやお金の価値を知り、それらを大切にすると共に勤労を尊ぶ子どもを育てる」

◆取組の概要

① 教科等での実践

2 年生
生活科での
授業風景



② その他の取組

- ・講師を招いて児童向け授業と保護者向け研修会
- ・委員会活動(石鹸作りと販売、節電の呼びかけ など)
- ・その他(リサイクル運動、家庭生活チャレンジシート、トレー回収運動など)



外部講師を招いた研修会
(PTA 研修部との連携)

◆成果

○日常から行っていることを整理して、実践してきたことで無理なく金銭教育に取り組むことができた。

○金銭教育を実践することで、教師の意識が高まり、より子どもたちに意識させることができた。それにより、子どもたちの金銭教育に関する意識が高まった。

○金銭教育の視点を授業に取り入れることで、子どもたちに新たな気づき、思いが生まれ、授業が深まった。(金銭教育に関わる知識を身につけることも大事)

○指導者の意識が高まり、金銭教育に関する授業だけでなく、ショートのアラートや子どもたちとの何気ない会話の中にも意識して伝えることができた。

○健康委員会や広報委員会など、子どもが主体的に取り組む活動を行ったことで、該当委員会以外の児童の意識が高まった。(電気を消す子の増加、コンセントを必ず抜く子、水の出っぱなしの減少、環境美化への意識の高揚)

○金銭教育に関する講演会を行ったり、長期休業中の「家庭生活チャレンジシート」の取組を行ったりしたことにより、保護者の方の金銭教育に関する意識は高まっている。

【おおち保育園・君谷保育所・邑智小学校・邑智中学校】

◆研究の概要

地域の資源を活用した豊かな体験や地域の人々との交流を通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、地域社会の一員として自覚を促し、ふるまいの心を育み、自己肯定感を高める。

◆取組の概要

- 「道徳の時間」の充実と隣保館との連携による人権学習の推進
 - ・指導力の向上
- 地域の教育資源「ひと・もの・こと」を活用した交流体験活動の充実
 - ・異校種間連携
 - ・地域の「匠」と自然体験
- 保護者、地域と連携した生活習慣づくり
 - ・ふるまい向上
 - ・毎月 10 日はノーメディアの日
 - ・保小中の共通の合い言葉は「あいさつ」



道徳の研修会



隣保館で人権学習会



一緒に芋掘り



「匠」の協力



ノーメディアの日



隣保館で茶道教室

◆成果

- 「道徳教育」「あいさつ」「ノーメディア」をキーワードとして、保・小・中が共通して取り組む目標を作ることができた。また、保護者や地域との連携を深めることができた。
- 「道徳の時間」指導力向上のための研修会（鈴木由美子教授／広島大学）において教材分析演習等を行い、その後の研究授業を通して指導力の向上を図ることができた。
- 地域の教育資源を活用した道徳教育成果普及のためのリーフレットを町内全戸に配布することができた。

平成 24・25 年度 体力向上推進モデル事業 【浜田市立岡見小学校・大田市立朝波小学校】

浜田市立岡見小学校

学び合いの中で、自ら運動や心身の健康づくりに取り組む児童の育成
～「わかる・できる・かかわり合う」学習を通して～

- 環境整備
(のぼり棒のマーク付け)

あのマークを目標
にのぼるぞ！



- 体育学習について
(ボール運動での動き
を考える場面)

次は、こんな動き
をしよう！



大田市立朝波小学校

みんなで進んで健康・体力づくりに取り組む子どもの育成

- 朝波オリンピック
(クモ歩き競争)

他にも、「だんご虫競争」や「りんご拾い走」があるよ！



- 学校保健委員会
(食育クイズラリー)

わあ！
知らなかったな。



先日、「子どもの体力向上実践フォーラム」が開催され、その中でモデル校の取組発表が行われました。子どもたちの運動への関心・意欲を高めたり、運動の喜びを味わわせたりするための工夫が見られるモデル校の取組は、各学校の体育・保健体育の授業力向上や体力向上施策の改善に大いに参考になります。ここではモデル校の取組のほんの一部しか紹介できませんが、詳しい内容は来年度も県教育委員会が発行する「子どもの体力向上推進事業★参考実践事例集★」に掲載されますので、どうぞご覧ください。
なお、平成 25・26 年度のモデル校は大田市第一中学校で、「心と体を共に高め、積極的に健康・体力の向上に取り組む生徒の育成」を掲げ、体育学習や部活動・昼休みを通じた体力づくり、基本的生活習慣の確立を目標に取組をすすめておられます。

◆研究の概要

研究主題：子どもの主体的な課題追究活動を引き出す学習指導のあり方

追究活動の流れ（学習課題 → 予想・仮説 → 計画 → 観察・実験 → 結果の整理 → 考察 → まとめ）において、以下の4点に示したような活動を引き出すための学習指導のあり方について研究した。

- 関心や意欲をもって対象とかかわり、自ら見いだした問題から課題を設定すること。
- 見通しをもって観察・実験などを行い、課題追究に取り組むこと。
- 観察・実験などの結果を整理し、相互に思いや考えを伝え合いながら、自分なりの言葉や方法で考察したり、まとめたりすること。
- 学習で身に付けた知識・技能を活用し、課題追究に取り組むこと。



中学校の理科室で

◆取組の概要

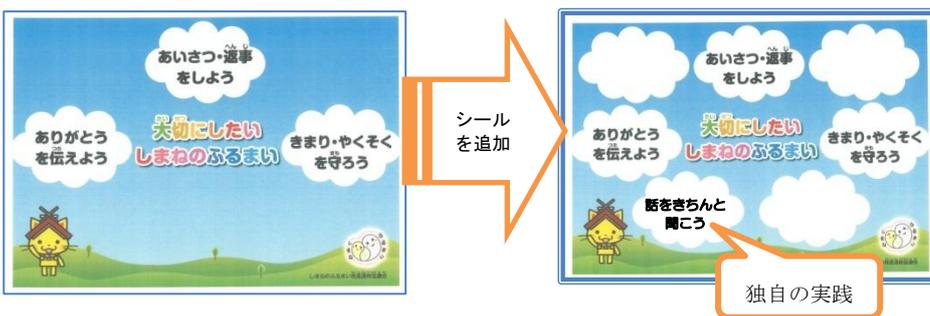
授業での実践 校内環境整備 アンケート調査の実施 地域の「ひと・もの・こと」の活用

◆主な成果

- 子どもの問題意識を基に単元を貫くテーマ設定をし、課題追究活動を行ったことが、追究意欲を高めた。
- 学校内の環境整備を行ったことで、自然現象に対する児童の関心を高めることができた。
- 対象との出合わせ方に工夫をしたことによって、子どもの疑問や驚きを基にした学習課題を設定できた。
- ノートやワークシートを活用したり互いの考えを交流し合う場を設定したりしてきたことで、自分の考えを表現しようとする意欲が高まった。
- 単元の特性を考えて様々な活用の場を設定したことで、学習したことを使って新たな課題を解決しようとする意欲や自信を高めることができた。
- 問題解決学習の流れを意識できるようにしたことで、児童が見通しをもって主体的に追究活動を行うことができるようになった。

しまねのふるまい推進プロジェクト 「大切にしたい しまねのふるまい」ポスターについて

「ふるまいの定着」の推進のため、「大切にしたい しまねのふるまい」ポスターを作成し、昨年の11月に各園・校に配付しました。このポスターは長期使用ができる素材、シールの張替が可能です。現在多くの小中学校で活用されているようですが、今年度の実践を振り返り、来年度も活用していただきたいと思えます。



★アンケートより・・・各校からの感想★

- 自分たちに必要なふるまいを学級で考え、よく見える場所に掲示したり、毎日唱和したりすることで、意識して生活するようになった。
- こうした取組は大切である。より定着させていくためには、学校・家庭・地域の連携が必要である。
- ポスターは、児童・生徒が自らふるまいを見直し、改善に向けた取組を生むきっかけとなっている。

など

3月には「しまねのふるまい」が「しまねの宝」になれば・・・という思いをもって、「しまねのふるまい推進キャンペーン」も行います。ラジオによる広報や各地域でのチラシ配り等を通して、アピールします。よろしくお願ひします！！



～ありがとう江津 ふるさとを幸せにする人づくり～

【座談会メンバー】

佐々木孝久 (D52 江津商工会議所青年部)

山本 由起 (保護者代表)

嘉戸 英昭 (江津市立江津中学校 PTA)

松原 秀雄 (江津市立郷田小学校)

山藤 俊治 (江津市立青陵中学校)

泉 雄二郎 (江津高等学校)

(コーディネーター) 多々納雄二 (高校教育課)

多々納 今日は「地域でつなぐキャリア教育モデル事業」の江津地区のテーマ「ありがとう江津 ふるさとを幸せにする人づくり」のもと、社会の一員として夢の実現に向かう江津の子どもたちをどうやって育成していくのかを中心にすえ、みなさんの意見をいただきたいと思います。

江津市のキャリア教育とその現状・・・

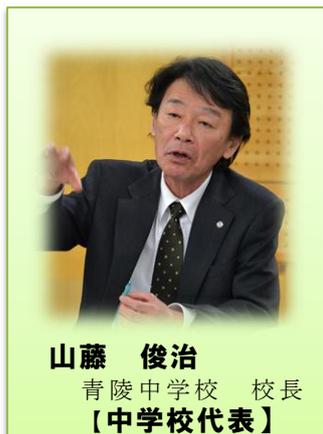
松原 小学校でいうキャリア教育は、基盤づくりだと思います。郷田小学校では次の四つの視点で取り組んでいます。一つ目は、何のために働くのかということです。小学校1年生の時から係活動をしっかりやっていくのは必要だと思います。特に、高学年では社会のために、人のために役立つこと、そのためにこの職業があるのだということをおさえながら指導しています。二つ目の視点は、コミュニケーション能力です。コミュニケーションのスタートというのは、あいさつだと考えます。市内全体で、「あいさつ、返事、靴揃え」という合言葉を決めてスタートしています。三つ目は、課題対応能力です。最近の子どもたちは、「ボールが溝に落ちました。」と言いに来ます。自分だけではどうしていいのかわからない。日々生活の中で子どもたち自身で考える機会を多くしていかないといけないと思います。四つ目の視点としては、努力する態度です。それは、努力していく、積み重ねていくことをとおして、培っていかないといけないことだと思います。以上、四つの視点で小学校では取り組んでいます。ただ、学校だけではできません。ぜひ、地域、家庭を巻き込んでやっていきたい、これが大きな課題です。

山藤 中学校では、キャリア教育を全ての教育課程とつなげるということです。

言い換えれば、四つの能力を教科学習に照らし合わせながら、全体計画や指導計画を作って実践していくことです。課題は、地域の教育力・・・企業、家庭と学校を有機的につなげること。コーディネーターの横田さん（島根県商工労働部雇用政策課・江津市産業人材育成コーディネーター）の力を借りながら、キャリア教育とふるさと教育と一緒に取り組んでいます。ふるさと教育をやりながらキャリア教育をしているのです。その先に何を見据えているかということ、「江津に帰ってくる子をつくること」だと私は教員に話しています。

泉 今、悩んでいることは、教員の意識改革です。私は、「地域社会を幸せにする」という教育目標を掲げて取り組んでいます。これまでの実践をきちんとつなげていこうと考えています。子どもは柔軟ですから、新しい刺激を与えると非常に良い反応を返します。しかし、教員には浸透しにくい。何のために勉強するのかと子どもから投げかけられた時に、それは地域社会を幸せにする力をつけるためだと答えると、子どもにはすっと入ります。服装がだらしない子に、「その服装はふるさとを幸せにする力があるの。」と聞くと、さっと直します。

地域の方は、学校に対して非常に熱い思いで支援して下さるが、学校は閉じている。そこを開きたい。地域活性化と学校教育活性化、学力向上は、深いつながりがあると思います。地域を活性化する動きの中に、子どもたちを巻き込むことによって、子どもたちの学力は上がると思います。この地域には高校がたくさんあります。それぞれ高校の果たす役割が違うと思います。それを一つにくくるのは難しい。やはり、それぞれの高校の思いは、地域を支える人材をつくっていくというところに集約されるのではないかと考えています。教科の指導が第一であると教員は考えています。コーディネートしてくれる方がいて、こういうことを取り組みましょう、一緒にやりましょう、と自分の守備範囲を少し広げて、自分のアウトリーチとして、取り組んでくれる教員が増えるといいと思います。



山藤 俊治
青陵中学校 校長
【中学校代表】

嘉戸 私には中学校2年生の娘がいます。先生や親とは異なる大人の話聞くことは大切なことと考えます。中学校3年生が、毎年私の事業所に職場体験に来ます。2日間ですが、その間はもちろん授業をすることができない。とても思い切ったことをされていると思います。授業日数の少ない中、大変なことではあるけれど、それ以上に意義があると考えて、外に出しておられるのだと思います。ただ、疑問なのは、出されている生徒たちが、その意義を分かっているかということです。本当にいいことを



嘉戸 英昭
江津中学校PTA会長
【市P連代表】

されているとは思いますが、その意義を生徒、職場、ご家庭の方がどのように受け取っておられるのが大切だと思います。子どもたちには地域の方と触れ合って地域を好きになって、江津に戻ってほしい…できれば出てほしくないけれど、地域を愛することで戻ってその地域に役に立つ人間になってほしいと思っています。

山本 私も、我が子が保育所での職場体験について、たくさん話をしてくれたことを思い出しました。今振り返ると、その時に忙しい保育所が職場体験を受け入れてくださったことを子どもに伝えるべきだったと反省しました。私には保育所に職場体験をお願いすることはできません。中学校が保育所とのつながりでしてくださったことが当たり前ではないことを子どもに気づかせる言葉を投げかけるべきでし

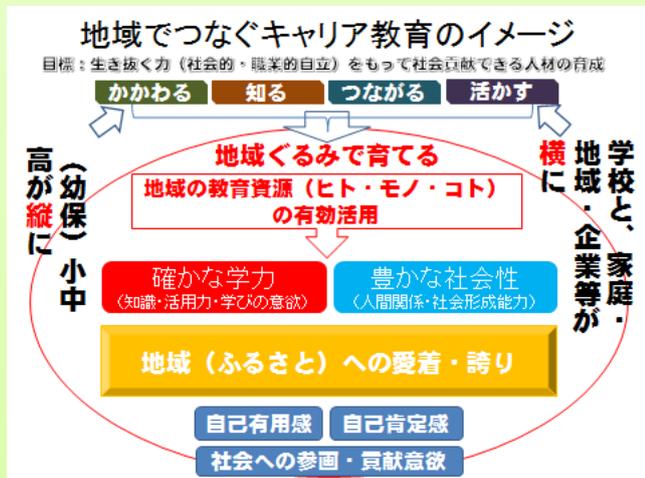
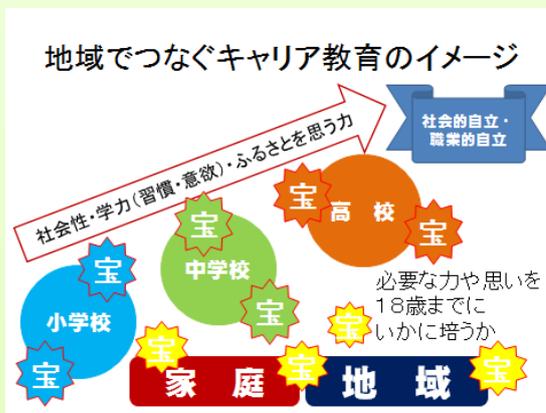
島根県のキャリア教育は今…

自立（独り立ち）をゴールに…バトンを渡すのではなく、つないでいきたい！

子どもたちの独り立ち。多くの子どもが自分の未来を見つめ、進路先を決め、新しい世界に飛び出していく18歳の春。島根の子どもたちは18歳の春に、その多くが県外へ出て行ってしまいう現状です。だからこそ、私たちはそのゴールに共通のイメージをもって、子どもたちと向き合っていかなければならないと思います。

しかし、小学校では遠い先のことから…、中学校では職場体験をやっているから…と、やりにくさを感じておられる先生も多いようです。

キャリア教育は、特別な教育をすることではありません。今ある「宝」を大事にし、子どもたちの未来を思い描きながら、それらを意識してつないでいくことが大切です。校内で話題にしなが、教職員みんなで、できることから意識して取り組んでみま



しょう。今回の対談が各校のキャリア教育推進の一助になることを願っています。

キーワードは…

「共通理解・系統・連続・体系的に」です。それぞれがつながりあって、島根の子どもたち…島根の宝を一緒に育てていきましょう。



多々納雄二
高校教育課
学力向上・キャリア教育
推進スタッフ 企画幹
【コーディネーター】

た。そういうことに気付かせるのは、家庭の一言なのだと思います。小さい頃から自分で考えるような場面をもっと設定してやらないといけない。あいさつも十分にできない子どものまま、いきなり職場体験に送り出していると思います。家庭内で子どもたちがもっと考える場面を設定してやりたいです。しかし、今はあまりにも便利すぎて、考える必要性がありません。子どもたちに自分で考えさせようと思ったら、不便なところに入れ込むしかない。もっと不便さを与えたいと思います。不便だからこそ子どもが自分で考えるのです。学校で生活することは、そういった面でもとてもいいと思います。集団で過ごさないといけないし、苦手な人とも付き合わないといけない。そういう不便なところで学ばせたいと思います。ただ、便利なツールに邪魔されて、キャリア教育のもとである家庭としては、困っています。

多々納 ありがとうございます。先ほど「不便」という言葉がありました。学校にいる間は、嫌なことにも付き合わないといけない、我慢しないといけない。いろいろな負荷がかかってくる…でもそういう時間が彼らを成長させていく、便利すぎると成長させる場面がなくなってしまうのではないかというご意見でした。家庭、地域、学校がどんな負荷をかけてやるといいのか、ある時はどんな負荷を取り除いてやるといいのか、そういうことを連絡調整するような場がほしいなとも思います。次に、企業関係という立場から佐々木様お願いします。

佐々木 2点あります。まず一つは、今日のこの場について、会社で言えば会議だと思えます。しかし、今日はこの会場に空席があります。これが江津市のキャリア教育の現状なのです。参加していない。知る、つながる、かかわるということが教育現場ですらできていない。なぜ、その現状が起きているのか、自分の仕事と置き換えて考えてみます。二つ目は、キャリア教育とは何であるのか。学校によって迫り方がさまざま、家庭においては何なのだと

いうような状態である。これを企業としてとらえて一つの関わりとして、職場体験として、生徒を受け入れました。その中で、思ったことです。学校側から「お願いします。」という連絡はあるのですが、「何をすればいいのですか。」と問うと「いかようにも使ってください」と。例えば、「この子どもさんは、こういう子どもです。」「こういうことがやりたい

から、ここを選びました。」「こういうことを伸ばしてあげるために、こういうことをしてあげてください。」それに対して、企業からご報告といたしますか、子どもに対して「こういうことをやってみます。」と。そして1年後に、またその話があるとか、そのつながりができるといいなと思います。また、これだけの人数で一般の方が1名しかいない。自分の役割、もしくはPTAの役割、教育の現場で働いていない人の役割がすごく重たいなと感じます。キャリア教育というものが認知されていないのが現状なので、何とかできないものかと思えます。

多々納 空席が目立つということについては、事務局である私の責任であると思えます。広報の仕方が悪かったのです。広報に、佐々木様、山本様、嘉戸様に手伝ってもらえばよかったなという後悔もあります。ぜひ、次回協力していただきたいです。

では、次に、江津の子どもたちが江津に帰って帰るような子に育ち、社会に出て貢献できるようになるためには、どうつながっていくといいのかについて考えたいと思います。



江津の子どもたち、 育てたい方、大人の関わり方

泉 キャリア教育は、山藤校長先生がおっしゃったように、地域を支えてくれる人材を育てるのを目的としています。それを保護者がどのように考えているのか、保護者はわが子が幸せになればいい、いい学校、いい就職、いい将来、そういう流れでみているのではないかと心配です。そうするとこのような課題を出してもつながらないのですが…。

嘉戸 価値観がちがうので人それぞれだと思えます。私もUターン者の一人です。帰ってきたことを全く後悔していないし、出ていったことも後悔していないし、出ていったので様々な経験もできた。自分の子どもも江津に居たいと言えば居ればいいし、出ていろいろ勉強したいと言えばそれでいい…と思うのは私の考えです。保護者によっては考え方が違うと思うので。

山本 私は地域を支える人材に育てたいと思えます。だれかの役に立つ子に育ててほしいとは思いません。できれば地元へ帰ってきて、地元の人の役に立ちたいという思いをもってほしいとも思えます。でも、それは「江津に帰って来てよ」とか「お父さん、お母さんの面倒をみてね」とか、言って聞かせることは親にはできないので、私たち親以外の大人たちとの出会いが、子どもを変えることとなります。な



佐々木 孝久
D52 代表
江津商工会議所青年部
【企業等代表】

ぜ親のために帰って来ないといけないのか、と思わせては意味がないと思います。もっと遠い人の関わり中で子どもが考えていくことが大切だと思います。家庭では、日々の暮らしのなかで、親の思いや考えをしっかりと伝えていきたいです。



山本 由起
【保護者代表】

泉 その地域、江津に帰る人材と考えるときに、大人の力、学校の力、家庭の力が必要だと思います。子どもたちが周りを見たときに、これからこの地域は発展していくということが感じられるよう、市のビジョンがはっきりしている必要があると思います。ビジョンの中に空白があるなということに気付く、そのために自分ができることがあるという思いに至る…こんなことを考えていると子どもが発言した時に、「おもしろいね、やってみたら」と言う大人がいる。その中で、自分はそこを埋めるために、これから高校に行き、場合によっては大学に行き勉強して、そこで身につけたものを使ってなんとかその空白を埋めていくことができないか、そういう思いの子どもを育てていきたいと思います。他の地域にないものがここにはある…それを子どもたちに感じさせる中で、自分はここで何かできるのではないかなという思いが生まれてくると思います。

佐々木 家庭でできることとは、親孝行を見せること。例えば、お父さんお母さんが、おじいさん、おばあさんへ親孝行している姿を子どもに見せる。人のために何かをすることというところが、結果的に家や地域での子どもの姿へとつながっていくのではないのでしょうか。家庭でできることとは人間力をつけること。例えば、地元に戻らなければならないけれど、帰るならばこういう知識をもって帰ろうとか、プラスに考えられること。ただ帰ってくるのではなくて帰って自分はどうやっていきたいかという使命感や志をもって帰ってくる…そのきっかけが親孝行と言えるかもしれないと思います。

山藤 キャリア教育という言葉は難しいけれど、学習指導要領でいう「生きる力」の考え方と重なります。それを具体的に私の学校で考えていきます。中学校段階でできることと言えば、職場体験、地域講師を招いての講演会、体験活動などですが、ほとんどの場合、一方通行あるいはその場その場で終わっているのが現状です。これを深く広げるために、地域の方々と対話やディスカッションをしたり、複数回来てもらったりするなど、その体験がその場だけで終わらないような活動を仕組んでいます。これは学校という立場だからできることです。幸い、江

津市には横田さんというコーディネーターさんがおられます。そういった力を借りながら、企業の方との深まりを意図的に仕組むのが一つのポイントになると思います。地場、江津の宝を、より有機的につなげる方法を模索する時期だと思います。単発でやったらおもしろくない。企業にとっても有用なことがあるかもしれません。深まりが必要だと思います。

佐々木 私は、青山中学校（統合して現在の青陵中学校へ）出身です。この（青陵中の）校舎は新しくて母校のような気はしません。母校を失った状態です。だけど、例えば、建物が新しく建て替わっても、恩師に再会すると、何か母校に帰ったような気になる。行きつくところは人です。人が宝であって、それをつなげることができれば、最終的に江津というものが島根県の宝になるかもしれないです。つなげていける第一歩だと思います。

泉 例えば、佐々木さんたちのグループが地域の食材を使って弁当を開発するというプロジェクトを立ち上げて、そこに江津高校生4人が加わって『里弁プロジェクト』が動いている。これは、学校が投げかけたのではなくて、企業が投げかけてきたものです。

佐々木 これには裏話があります。実は、この話をもっていくつかの学校に行きましたがダメでした。その際、ある生徒が、このプロジェクトに出たいと言いました。しかし、部活を優先して、出ないでくれと言われてたそうです。野球をやっているのだから、チームワークを崩すことはできない…だけど、子どもとしてはやってみたい…ということです。

泉 部活の話が出たが、こうしたことを部活化できないかと思います。ソーシャルデザイン部を作ってはどうかと…。

佐々木 県立大学ではカリキュラムを組んで街づくりを行っています。それは信頼される学校をめざすということにもつながります。大学の場合は受験して来てもらうことが優先です。地元の子どもの大学へ来てもらうためには、地元はその大学を売り込まなければならない…そういう視点も大切かもしれません。義務教育でも、信頼される学校をめざし、地域とつながっているかどうかです。

泉 インターンシップというものがありますが、子どもたちの考えが社会を変えるのだということが、やりようによってはできます。大学ではエクスターンシップも行われていますが、自分たちの発想で世の中を変えていくという場を作ってやることも必要です。ある程度お膳立ても必要ではありますが、子どもたちの提言が生かされて少し変わっていったというような世界をつくってやることができないかと

思います。今、本校では地域課題研究に取り組んでいます。その発表の場を市議会できれないかと考えています。そうすると自分たちの小さな力で社会が変わるという経験ができます。多々納さんの用意された資料の中に、志がある若者が育ちにくい地域環境、育ちやすい地域環境という比較があって、岐阜の可児高校の物理の先生が、地域活性と高校キャリア教育をつなぐという取組をしているという紹介がありました。学校だけの動きではできないだろうし、地域が元気になっていく中で、子どもたちが育つことが絶対に必要です。相乗効果として、学校が変わることで地域も元気になっていく。地域が変わるから学校も元気になる。そのような循環ができていくといいと思います。

松原 江津に戻る子どもを作るための具体策・・・これはとても難しいことです。江津に子どもの望む職業がないことは事実だからです。しかし、江津には帰って来られないが、できれば帰りたいという気持ちを育てることはできると思います。山本さんの

話で思いましたが、ある大学生が都会へ出た時のことです。東京には何でもあるし、自分は学力や知識は少ない・・・でも、調べる力は人一倍あった。不便であるがゆえに、分からないがゆえに、調べる。そういう環境で育ったことを良かったと感じたと。それは大切なことだと思います。江津は確かに不便なところがあるかもしれない。でも、「転ばぬ先の杖」的な教育を行うのはどうかと思います。



松原 秀雄
郷田小学校 校長
【小学校代表】

多々納 どう出会わせればよいか。どう関わらせればよいか・・・でしょうか。若い世代との関わりをどう設定すればよいのか。あるいは、インターンシップなどの取組に関わると、地元企業との関わらせ方についてどういうことを考えていけばよいのでしょうか。若い世代はネットワークができていますか。

佐々木 若い世代のネットワークというと、仲間や友だちということだと思います。特に部活動では、応援に行く保護者同士の関わりもあります。保護者が出てくることによって子どもたちもの関わりも深まります。小学校ではお父さんお母さんも若い。それ以外の接点は、大学ぐらいまでです。そういう意味では、「てごねっと石見」さんの存在は大きいのではないのでしょうか。

多々納 例えば、この事業の一つの成果物として、江津のネットワークが考えられます。小学校で、こんな人を学校に呼んで活動したいと考えたとき、そのネットワークを活用すると呼べるようになります。学校現場と地域のつながりがより深くなるのではないのでしょうか。

佐々木 江津工業高校で言えば地元のショッピングセンターで活動します。地域とかかわる場です。人が集まる場所に、子どもたちが関わる・・・学校として関わる・・・そういう参加の仕方が考えられると思うのですが。

泉 江津高校のPTAが立ち上げた教育フォーラムという行事があります。子どもと大人が1テーブル8人集まって、様々な話題で話をする場を作って2年目になります。今は、シリーズで展開できないかと考えています。これは、小学校でも中学校もできると思います。私としての最終到達地点は、江津キャリア教育センターを作ること・・・駅前の一画に、小中高生が集まって、自分たちのやっていることをプレゼンしたり、ポスターを貼ったりする場です。そこで小中高生がつながっていく、その様子を地域の人が見る。大人も関わっていく・・・そんな場をつくりたいのです。

佐々木 ネットワークづくりについて、逆にネットになっているのがSNSですよね。見えないところでネットワークができています。だけど人は見える場所に関わり合いをしないと広がっていきません。便利になったけどよくないと思います。

嘉戸 やはり弊害になるでしょうね。ただ、これだけ普及したものを排除していくことは難しい。インターネットとの正しい付き合い方を学ぶ必要があると思います。これからもっと誘惑が増えていくかもしれません。一度与えてしまったものを取り上げる訳にもいかないでしょうから。

多々納 SNSよりも魅力的なものに出会わせることです。江津の特徴の一つ、「てごねっと石見」という非常に有機的なNPO法人がある。そこを拠点にしながら、人と人がつながって、宝が浮き彫りになるネットワークを作る。そして、学校現場とつながって、学校のオーダー等に応じていける。それが職場見学、職場体験、インターンシップ等でも機能するとよいのではないのでしょうか。

では、そのあたりでまとめながら、各メンバーから最後の言葉いただきたいと思います。

江津の「宝」をみんなで育てる

佐々木 企業代表という立場で言えば、教育関係者との接点が少ないのが現状です。自分がやってい

る仕事が、最終的にやりたかったことかと言われれば、きっとそうではない。でも、だからこそ、キャリア教育を通して、子ども自身が、よしやろうと思えるような教育作りができたらいと思う。

山本 母としても、コミュニケーションの力をつける教室をやっている立場としても、自己満足で終わらずに、外と自分がつながらないといけないと思います。子どもたちの目の前だけでなく、もっと子どもたちの将来や遠くを見て、自分もまわりともつながっていかないと子どもたちを狭めてしまう。新たな一歩を踏み出したいと思います。

嘉戸 年度初め PTA 活動で学級役員を決める時、なかなか決まらないということがあります。子どもたちにはそういう困っている時に、手をあげられる人間になってほしい。それが地域でも生かされると思います。自分の意思で動ける子どもを育てること…これが、キャリア教育の最終的な答えではないでしょうか。

松原 改めて小学校の役割は大きいとつくづく感じました。基礎だからこそ大切。また学校にもちかえり、話し合いたいと思います。学校は、訓練の場です。それを実践するのが、地域であり、家庭である。だからこそ家庭と地域とがしっかり連携して、学校で学んだことを実践する。悪い場合は学校でもう一度考え直す。これを繰り返していかないとはいけません。

山藤 改めて「つなげること」は大切だなと思います。冒頭に泉会長が言われた、「江津には他にはない宝がある」という言葉。いわゆる地域資源です。若い方々が江津のいろいろな方面で活躍されています。私の教え子もたくさん帰ってくるようになりました。以前にはなかったことです。こういう動きは大変素晴らしいと思います。私の立場としては、教育委員会と県教委と通じながら、学校であることの強みを生かした継続的な活動を大切にしたい。今日は、地域連携、小中高のふるさと教育やキャリア教育を推進していく上でのつながりを、改めて考えました。同じ子どもがずっと通うのだからこそ、体系

的に力をつけていかないといけないと改めて感じました。

多々納 今後の事業展開について…今日の話合いを踏まえて、地区連携推進連絡会を実施主体として進めていきます。3年間の事業ですが、みなさんの意見を吸い上げながら、江津市にお任せしたいと考えています。地区連携推進連絡会で練って、取組を実践していきたいです。最後に連絡会の会長よりまとめのご挨拶をお願いします。

泉 個人的な話をさせてください。私は非常に内気な人間で、こういう場に座って、人の前で話すのがすごく苦手です。小学校の頃、人前で話すことができない子どもでした。3年生の時の担任の先生が、「大丈夫だからな」と言ってくださいました。複式



泉 雄二郎
江津高等学校 校長
【高校代表】

学級の少人数のなかで、しっかり自分を出しなさいと後押ししてくださった。その時、背中を押されたことが、今ここに、こう座っている自分を作ってくれたと思います。そういう大人の後押しというのは、とても大きいと思います。子どもたちに私と同じような大人の後押しによって自分の人生を切り

拓かれる場を作ることが、キャリア教育の本質だと思います。みんなの思いが高まっているのは間違いありません。まず、小中高それぞれをしっかりつなぐ、学校でなければできないことをしっかり構築する。そこが校長としての役割だと思います。そのことを地域に発信し、地域のみなさんや保護者のみなさんにつながりながら、この地域でできない教育をしていきたいです。

今日は、大きな勇気もらった2時間でした。ありがとうございました。

★★★感想シートより (抜粋) ★★★

多方面からの意見を聞き、改めてキャリア教育の幅広さについて考えさせられた。また、それぞれの底を流れるものは共通性のあるものであると感じさせられた。不易の部分をしっかり認識し、耕していくことが小学校教育において重要だと思った。

地域で一員としてともに活動することが楽しいものであることを、地域の大人が子どもに見せることが大切であると考えてるので、学校として地域の活動へできるだけ参加させるようにしたい。この体験の中で、子どもは地域で将来生きるイメージがわき、やがてはふるさとに戻る子どもができるように思う。

地域でつなぐキャリア教育をイメージするきっかけとして、今回の座談会は有効であったと考える。(学校、地域、家庭が連携とは言っても、それぞれのイメージが異なっているため)

座談会を聞いて…

企業関係の人をもう少し多くして意見が出やすいようにしてもよかった。小、中、高、社会の現状などを知ることができた。この知ったことをどう生かしていくかをもう一度考えていきたい。(小、中とのズレ、社会とのズレ)

学校訪問指導を終えて～アンケート結果を踏まえて～

学校訪問指導は、学校教育の充実を図ることを目的として実施しているものです。指導主事等の訪問により、各学校の教育課程、学習指導その他学校教育に関する専門的事項の指導・助言等を行い、各学校の教育力の向上を図りたいと考えています。

浜田教育事務所では、平成24年度までは「市町担当」制として管内3市3町のすべての小・中学校に3回の学校訪問を行ってきました。平成25年度は管内すべての市町に指導主事（学力向上担当）が派遣されたこともあり、教育事務所と市町教育委員会がより連携した取組を行うために次のような形に変更しました。

A 教科等指導に関する学校訪問指導	41校
B 人材育成に係る学校訪問指導（初任者研修，6年目研修，11年目研修）	31校
C（1）生徒指導に関する学校訪問指導	27校
C（2）特別支援教育に関する学校訪問指導（新任・新設等，ここにこサポート事業）	38校

また2月前半には、大変お忙しい中、今年度の学校訪問指導に関するアンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。結果をまとめたものいただいたご意見の一部を掲載します。

A 教科等指導に関する学校訪問指導（41校）

◆授業参観や協議について

	参観	協議
全教職員	35	36
全教職員に呼びかけ	0	1
一部の職員	4	4
無回答	2	0

◆協議や指導助言について

非常に役に立った	30
役に立った	11
ニーズとずれていた	0
役立たなかった	0

◆自由記述から

- 本校の研究主題に合致した資料をたくさん提示していただき、研究協議の時間だけでなく、その後の校内研究を進める上でも有効な訪問指導であった。
- 学力向上、授業力向上に向けた取組について、具体的なアドバイスをいただき、気持ちが前向きになった。
- 国語の訪問指導で、単元を貫く言語活動や授業の基礎・基本について説明いただき、教職員間の共通理解が深まった。
- 算数的活動と算数科における言語活動の関係について指導いただき、参考になった。

◆自由記述から

- 提示いただいた資料がわかりやすかった。県教委発行のリーフレットの紹介もいただき、参考になった。
- 初任者には、丁寧に指導があり、自信を持つことができた。また、初任研の授業と校内研究とを関わらせながら指導を受けたので、全教職員が自分のこととして受け止め、研修に加した。
- 授業の進め方について詳しく話を聞いた。先生方の多様な考えを聞かせてもらえる良い機会となった。その中から授業者が取り入れたいことも多くあった。

A「教科等」、B「人材育成」いずれの学校訪問であっても、ほとんどの学校が全校体制で取り組んでくださり、大変感謝しております。

また協議や指導助言が、授業公開をされた先生はじめ多くの皆さんにとってプラスになることがあったと思われます。

子どもたちの学力の向上への第一歩は授業力の向上と考えたとき、互いの授業を見合い、高め合う職員集団であることは大変大切なことだと思います。これからもさらにOJTの機能を生かしていただきますようお願いいたします。

B 人材育成に関する学校訪問指導（31校）

◆授業参観や協議について

	参観	協議
全教職員	24	24
全教職員に呼びかけ	3	3
一部の職員	4	3
無回答	0	0

◆協議や指導助言について

非常に役に立った	17
役に立った	14
ニーズとずれていた	0
役立たなかった	0

C（1）生徒指導に関する学校訪問指導（29校）

◆校内体制を振り返る機会に

とてもなった	9
なった	19
それほどならなかった	0
ならなかった	0
無回答	1

◆自由記述から

- 校内の生徒指導体制を振り返る機会となるので、毎年実施したほうがよい。
- 町の指導主事と共に訪問され、学校の実態や取り組みを理解しようとしてもらえることが、心強く感じられた。

生徒指導に関する学校訪問は「校内生徒指導体制の充実」を目的としています。各学校の素晴らしい取組について直接見たり聞いたりできました。これをきっかけにさらに生徒指導体制を充実させていただきますようお願いいたします。

3年間で管内の全小・中学校を訪問する予定です。

C(2) 特別支援教育に関する学校訪問指導 (38校)

◆授業参観や協議について

	参観	協議
全教職員	31	32
全教職員に呼びかけ	2	2
一部の職員	5	4
無回答	0	0

◆協議や指導助言、個別懇談について

	協議等	個別
非常に役に立った	26	23
役に立った	12	7
ニーズとずれていた	0	0
役立たなかった	0	0
設定なし		8

◆自由記述から

- 特別支援学級だけでなく、通常の学級の児童の支援につながる指導内容が多くあった。
- 特別支援教育担当の経験の少ない職員構成のため、特別支援教育の進め方、考え方など大いに参考になった。また、生徒指導としての視点でも参考になった。
- 初めての特別支援学級担任で、不安なこと、わからないことについて直接聞く機会を作ってもらえたことがよかった。
- 自立活動、生単について研修することができた。

C(2) 特別支援教育（にこにこサポート）に関する学校訪問指導 (24校)

◆訪問後の取組の工夫について

行った	19
行わなかった	2
無回答	3

◆非常勤講師との個別懇談について

非常に役に立った	14
役に立った	8
ニーズとずれていた	0
役立たなかった	0
設定なし	2

◆自由記述から

- 訪問指導をきっかけに担任との連携が深まった学級もあったので、その後の指導にも効

果的だった。また、個別指導を始めるきっかけにもなった。

- にこにこサポートをはじめとする非常勤講師にとっては、研修の時間が少ない中での懇談なので助言をしていただきとてもありがたかった。

特別支援学級担任、通級指導教室担当、にこにこサポートティーチャーの皆さんに共通する悩み(課題)は「校内での悩みや思いの共有」、「実践の具体のイメージ」「日々の相談」といったことと感じました。

多くの学校が全校体制で取り組んでくださいました。担当者任せにしない雰囲気大切に、全職員で担当者をバックアップし、その子どもを支えていくことが、すべて子どもたちへの支援につながるはずです。

★学校訪問指導全般について

◆申請に応じる方法に変えたことについて

実情に合わせやすい	74
変わらない	6
「必ず訪問を受ける」が良い	1

◆市町担当制をやめたことについて

今年度の方法が良い	64
変わらない	16
以前の「市町担当制」が良い	1

◆自由記述から

- 浜田教育事務所と市教委との役割分担が明確になったと思う。また、教育事務所だよりやリーフレットもネットを介してすぐに見ることができることも現場ではとても役立つものになっていると思う。あとは、現場がどのように活用するのかにかかっていると思う。
- 学校の要望により訪問指導の申請ができることはよい。校内で授業公開を行っているが、全教職員で行うことが少ない。特に、中学校では、年1回でも校外の講師（事務所指導主事等）の訪問を申請し、全教職員で授業研究をして、指導力、資質の向上に努めることが必要である。
- 訪問指導の整理・評価が必要であれば、訪問の都度アンケート用紙等を呈示していただき、回答させてもらった方が、当方としては処理が容易である。

紹介しきれないほどたくさんのご意見や今後に向けての検討課題をいただきました。今後市町派遣指導主事とともに、学校現場をよりよく支えていけるような方策を考えていきたいと思っております。来年度も引き続きよろしくお願いいたします



「学力向上に向けて」浜田教育事務所の提案

子どもたちのために、よい授業を目指し続けましょう！

①授業の基礎・基本を意識しましょう！

☆平成25年度全国学力学習状況調査クロス集計結果が、国立教育政策研究所から発表されました。

<http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/>

指導と学力の関係

- 1 見通し・振り返り学習活動
 - ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動
 - ・授業の最後に学習したことを振り返る活動
- 2 言語活動や総合的な学習の時間
 - ・学級やグループで話合う活動
 - ・総合的な学習の時間における探究活動（自分で課題を立てて、調べたことを発表するなどの学習活動） など

上記の活動を積極的に行った学校ほど、教科（特にB問題（活用）の記述式問題）の平均正答率が高い傾向が見られる。

ただし、学校が上記の活動を行っていると考えていても、そのように受け取っていない児童生徒が一定割合存在し、特に中学校でその割合が大きい。

指導と学習習慣の関係

3 学習習慣と関係が見られる指導

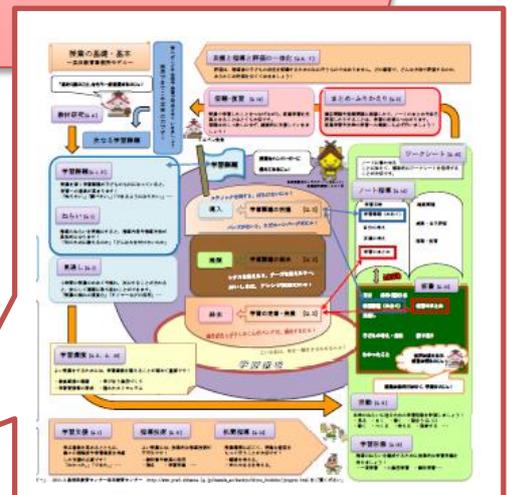
以下の指導・活動を行った学校ほど、児童生徒の家庭での学習習慣が身に付いている傾向が見られる。

- ・学習方法（テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導
- ・家庭学習に関する指導（家庭での学習方法について具体例を挙げながら教えるなど）
- ・総合的な学習の時間における探究活動

そこで、

- ★「目標（めあて・ねらい）を示す活動」と、「学習したことを振り返る活動」を、意識的に授業に取り入れましょう！
- ★学習方法や家庭学習などを意識して指導しましょう！
- ★子どもにも意識できるようにしましょう！

◎授業の基礎・基本（浜田教育事務所モデル）を参考に、板書やノート指導、話し合う活動など「当たり前のこと」をもう一度意識することから始めてみませんか。



「インプットする時点で、アウトプットを想定してやる」
何のために学ぶのが意識できれば、学びは深まるのじゃ。



②県教育委員会の発行物をひもといってみましょう！

☆学校には、これまで島根県教育委員会からたくさんの発行物が届いていると思います。そこには「よい授業」を目指すためのヒントがたくさん載っています。

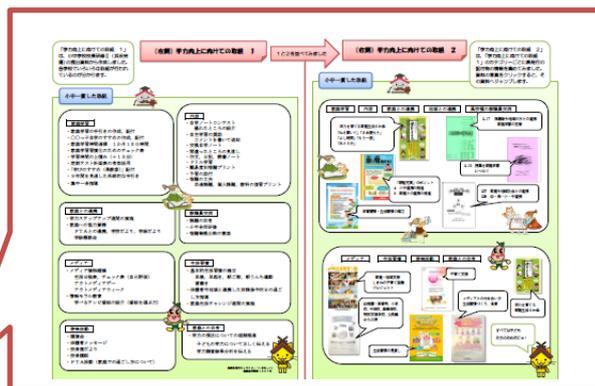
☆「各教科等の指導の重点」や「実りある授業のために」等には、最新情報が満載です。これを使わないのはもったいない。

ぜひ一度ご覧ください。

まずは、

★浜田教育事務所のホームページをのぞいてみませんか。

http://www.pref.shimane.lg.jp/hamada_kyoiku/gakkou_kyouiku/sanko-siryu.html



③豊富な実践や経験を共有し次代に伝承していきましょう！

☆それぞれの学校では、先輩から受け継いでこられたこと、新たな発想で始められたこと等、誇るべき実践がたくさんあります。

☆ひょっとしたらその価値に気付いておられない「宝」が、たくさん埋もれているのではないのでしょうか。

例えば、板書、掲示物、ノート指導、発問、学習規律、指名、学級経営、・・・

そこで、

- ★お互いの授業を見合しましょう！
- ★授業について語り合しましょう！
- ★豊富な実践や経験を共有しましょう！

「浜田教育事務所モデル」が授業を見たり、語ったりする一つの観点となれば幸いじゃ。



授業を見てもらった先生に、「**今の授業、分かった？**」と質問するのも効果的だと言われています。聞かれた先生は、教科間や学年間の壁を越え、「**子どもの視点**」で答えてあげましょう。

互いに学ぶ姿勢が、互いの授業力を高めることにつながると思います。

☆学校の中には、授業を行う先生だけでなく、校長先生を始め、教頭先生、養護教諭、栄養教諭、事務職員、校務員（用務員、校務技能員、技術員など）等、様々な職種の方が「子どもたち」のことを考えて働いておられます。直接、間接に関わらず、学校の全職員の力を結集して「よい授業」を目指し続けましょう！

☆そのことは「子どもたち」の力を付けることになります。そして、次代の学校を担う若き教職員に力を付けることにつながります。

平成26年度 管内事業計画及び各種研修会等 (3/10現在)

月	日	曜	予 定 事 業 名	会 場
4	16	水	期限付き講師・非常勤講師等研修会	浜田教育センター
	22	火	初任者研修連絡協議会Ⅱ	浜田教育センター
	23	水	全国学力・学習状況調査	各学校
	24・25	木・金	管内前期進路保障連絡協議会	川本合同庁舎
	28	月	県学力調査	各学校
	30	水	アンケート調査を活用した学級集団づくり研修	浜田教育センター
5	16	金	小・中学校特別支援学級, 通級指導教室新任担当教員研修①	浜田教育センター
	19	月	生徒指導主任・主事等研修	浜田教育センター
	20	火	小・中学校新任研究主任等研修	浜田教育センター
	22	木	小・中学校新任校長研修①	島根県教育センター
	23	金	小・中学校新任教頭研修①	島根県教育センター
	27	火	小・中学校キャリア教育担当者研修	浜田教育センター
	28	水	教育施策説明会(小・中学校長)	浜田教育センター
	29	木	小・中学校教務主任研修	浜田教育センター
	30	金	小・中学校特別支援学級, 通級指導教室新任担当教員研修②	学校会場
	6	2	月	小・中学校キャリア教育研修
3		火	中学校国語科・技術・家庭科教科指導リーダー養成研修①	島根県教育センター
5		木	にこにこサポート事業配置校担当者研修会	浜田教育センター
6		金	プール管理研修	益田合同庁舎
18		水	人権・同和教育主任等研修	浜田教育センター
24		火	小・中学校新任事務リーダー研修①	島根県教育センター
25		水	新任特別支援教育コーディネーター研修	浜田教育センター
27		金	スクールカウンセラー活用事業連絡協議会	浜田教育センター
7	1	火	小・中学校ふるさと教育講座	浜田合同庁舎
	4	金	小・中学校校長研修Ⅰ	浜田教育センター
	8	火	第1回管内進路保障推進者研修会	浜田合同庁舎
	10・11	木・金	小・中学校教頭研修Ⅱ	島根県教育センター
	22	火	小・中学校主幹教諭等研修	島根県教育センター
	24・25	木・金	小・中学校日本語指導が必要な児童生徒在籍学校担当教員研修	出雲合同庁舎
	28・29	月・火	小・中学校事務職員主任研修	浜田教育センター
	28	月	養護教諭研修	浜田市総合福祉センター
	29	火	小学校授業力向上研修	浜田教育センター
8	1	金	小学校へき地・複式教育講座	浜田教育センター
	4・5	月・火	授業改善説明会	浜田教育センター
	4	月	学校図書館活用教育研修	浜田教育センター
	6	水	中学校国語科教科指導リーダー養成研修③	島根県教育センター
	11・12	月・火	小・中学校新任教頭研修③	島根県教育センター
	21	木	中学校技術・家庭科教科指導リーダー養成研修③	島根県教育センター
9	3	水	健康教育(学校安全)研修	浜田教育センター
	17	水	複式教育研修	浜田教育センター
	18	木	第2回管内進路保障推進者研修会	浜田合同庁舎
	30	火	小・中学校新任事務リーダー研修②	松江合同庁舎
10	2	木	小・中学校新任校長研修②	島根県教育センター
	9	木	小・中学校特別支援学級, 通級指導教室新任担当教員研修③	浜田教育センター
	10	金	スーパーコーディネーター配置事業教育事務所別研修	浜田教育センター
	14	火	栄養教諭研修	島根県教育センター
	28・29	火・水	通級指導教室担当教員等研修	浜田教育センター
	30	木	文部科学省・島根県指定人権教育研究発表会	美郷町立大和小学校
11	4	火	小・中学校校長研修Ⅱ	浜田教育センター
	18	火	小・中学校教頭研修Ⅱ	浜田教育センター
12	11	木	小・中学校新任校長研修③	島根県教育センター
	26	月	第3回管内進路保障推進者研修会	浜田教育センター
1	26	月	小・中学校新任教頭研修④	島根県教育センター
2	24	火	管内後期進路保障連絡協議会	川本合同庁舎
3	25	水	初任者研修連絡協議会Ⅰ	浜田教育センター

※現時点での予定ですので、変更になる場合があります。3月末に島根県教育センターから研修に係る文書(「教職員研修日程一覧」等)が配付されますので、ご確認ください。